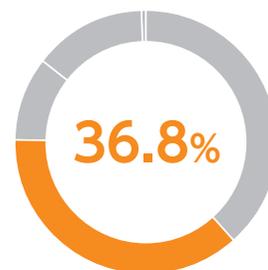
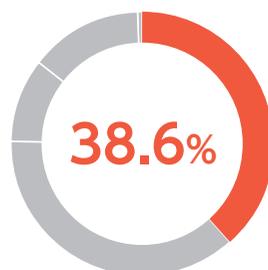


営業概況 (2018年3月期)

日本

東アジア

セグメント別売上高構成比(%)



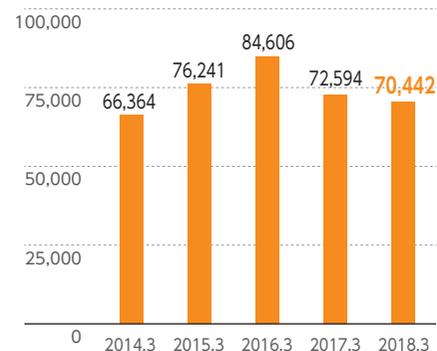
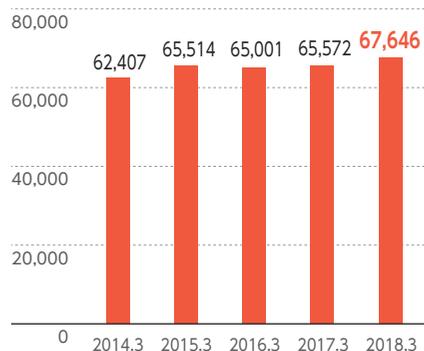
セグメント情報

(売上高、営業利益、従業員数は連結会社のみ)

売上高	67,646 百万円 (前期比3.2%増)
営業利益	5,728 百万円 (前期比283百万円増)
関係会社数	3 社
従業員数	2,919 人
展開エリア	日本国内

売上高	70,442 百万円 (前期比3.0%減)
営業利益	2,258 百万円 (前期比2,282百万円減)
関係会社数	9 社 (内連結子会社 7 社)
従業員数	4,667 人
展開エリア	中国、台湾、香港、韓国

売上高(百万円)



主な実績



南アジア



売上高	17,192 百万円 (前期比10.3%増)
営業利益	1,936 百万円 (前期比216百万円増)
関係会社数	12社 (内連結子会社 8社)
従業員数	1,548人
展開エリア	シンガポール、マレーシア、 フィリピン、タイ、ベトナム、 インドネシア、インド、 スリランカ、ミャンマー

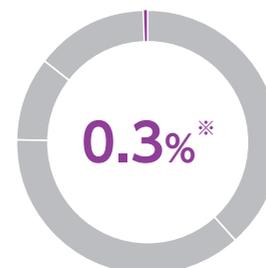
北南米



売上高*	23,871 百万円 (前期比8.1%増)
営業利益*	920 百万円 (前期比10百万円減)
関係会社数	7社 (内連結子会社 2社)
従業員数*	786人
展開エリア	米国、カナダ、 ベネズエラ、アルゼンチン、 ウルグアイ、ブラム

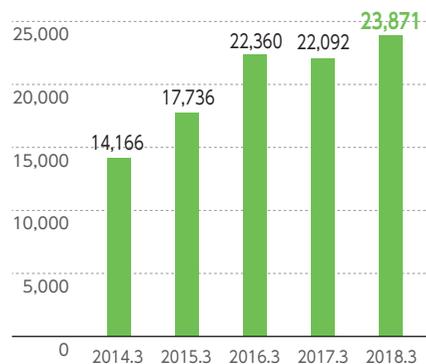
※数字は北米のみ

欧州・中東



売上高*	511 百万円 (前期比25.4%増)
営業利益*	△68 百万円 (前期は54百万円の営業損失)
関係会社数	3社 (内連結子会社 1社)
従業員数*	11人
展開エリア	イギリス、サウジアラビア、 エジプト、UAE ドイツの販売子会社は2018年2月に 売却

※数字は欧州のみ



営業概況



2018年3月期の取り組み

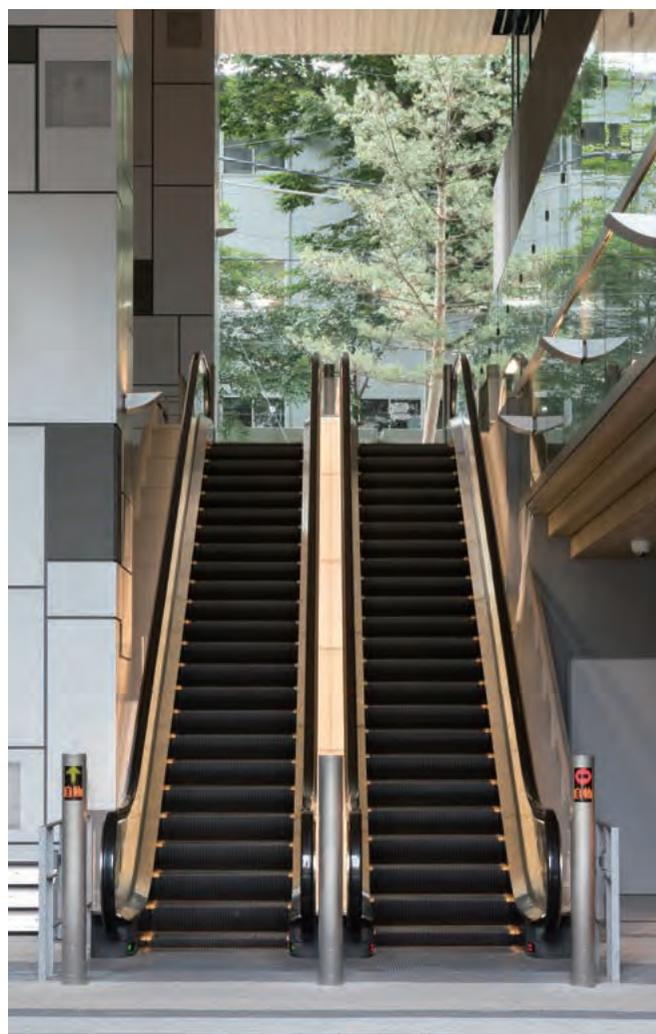
当期の売上高は、新設事業・アフターマーケットビジネスともに増加し、前期比3.2%増加しました。営業利益は、新設事業で外注費や人件費が増加したものの、モダンゼーションおよびサービス事業の売上増により、同2億83百万円の増加となりました。これにより、売上高・営業利益ともに2期連続で過去最高を更新しました。

新設事業

新設事業は、ホテル向けの受注が伸長したほか、店舗や流通施設向けも堅調に増加しました。

首都圏では、複合施設「渋谷キャスト」や大型商業施設「クロスガーデン調布」など、再開発工事の完成が相次ぎました。当社はそれぞれの施設にエレベーター・エスカレーター計16台、同22台を納入。また、八王子市の「帝京大学ソラティオスクエア」第II期完工の新校舎にエレベーター・エスカレーター計16台を納入しました。横浜市では、みなとみらい21地区の「京急グループ本社ビル(仮称)」のエレベーター8台を受注しました。

一方、近畿圏では、神戸市の会員制リゾートホテル「エクシブ六甲サンクチュアリ・ヴィラ」のエレベーター11台、大阪市の商業施設「ミズノオオサカ茶屋町」のエレベーター・エスカレーター計14台を納入しました。また、北陸エリアでは、「金沢医科大学病院中央棟」にエレベーター・エスカレーター計11台を納入しました。



渋谷キャスト(東京)

渋谷駅周辺で進む大規模再開発の一つとして2017年春に開業した「渋谷キャスト」。「住む、働く、くつろぐ。多様性を受け入れ、創造性を誘発する空間」をコンセプトとした複合施設です。当社は、エレベーター・エスカレーター計16台を納入しました。



帝京大学ソラティオスクエア(東京)

アフターマーケットビジネス

既設エレベータ・エスカレータの更新工事を行うモダニゼーションは、最新の安全基準や制御システムに更新することに注力しています。「戸開走行保護装置」「P波センサー付地震時管制運転装置」「耐震補強」をパッケージにした主力の「安全向上パッケージ」に加え、必要なところだけを最新型エレベータの電子装置に置き換える「制御盤交換パッケージ」を中心に順調に売上を伸ばしました。

また、既設エスカレータのトラスのみを残し、すべての機器を最新の標準型エスカレータに入れ替える新工法「ユニット in トラス工法」を開発し、販売を開始しました。同工法は搬入機器の小型・軽量化が図れるため、搬入が難しい地下鉄の更新工事をはじめ幅広い分野での利用が期待されます。

次期の展望と取り組み

次期の市場は、建築コストの上昇により、新規着工を手控える動きがあるものの、大型開発案件が続く首都圏を中心に堅調な需要が見込めます。

こうした中で新設事業は、標準機種を中心に積極的な拡販を展開することにより、受注・売上ともに増加となる見込みです。アフターマーケットビジネスは、保守が全体をけん引し、受注・売上ともに増加すると予想しています。また、利益面では、人件費や経費等が増加するものの、原価低減や生産性の改善で固定費の上昇を吸収することにより、増益を維持する見通しです。

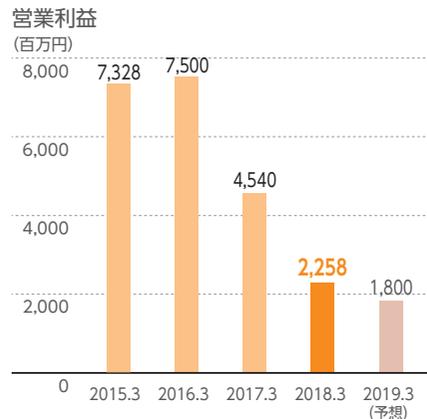
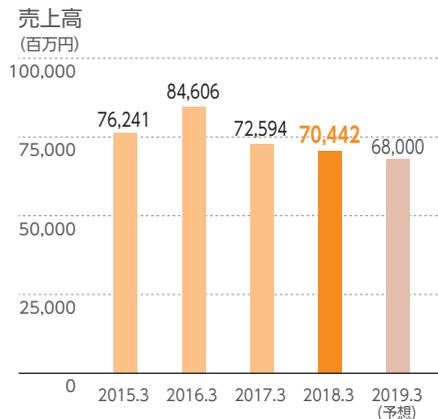


エクシブ六甲 サンクチュアリ・ヴィラ(神戸)



金沢医科大学病院中央棟(金沢)

営業概況



2018年3月期の取り組み

香港や台湾、韓国などでは概ね堅調に推移しましたが、中国は新設工場の減少や販売価格の低下、材料費の増加などにより厳しい市場環境となり、東アジア全体では売上・利益ともに前期を下回りました。

中国の新設事業は、受注台数がエレベータ・エスカレータともに過去最多となりました。主な実績は、浙江省義烏市の超高層ビル「義烏ワールドトレードセンター」にエレベータ・エスカレータ計24台、湖北省の大型複合施設「盛世北城」にエレベータ・エスカレータ計51台を納入。また、広東省深圳市の「深圳地下鉄4号線・10号線」のエレベータ・エスカレータ計327台、遼寧省瀋陽市の「瀋陽地下鉄9号線」のエスカレータ115台を受注しました。

台湾では、台北市の複合施設「中国人壽保險新本社ビル」のエレベータ22台を受注。また、桃園市の商業施設「統領百貨桃園店」のエレベータ・エスカレータ計35台を受注しました。香港では、政府施設

「ウエストカオロン・ガバメント・オフィス」のエレベータ・エスカレータ計29台を受注しました。韓国では、ソウル特別市のオフィス「ヤング・シティ」にエレベータ・エスカレータ計34台を納入しました。

次期の展望と取り組み

中国経済は、堅調な内外需要とともに、固定資産投資も底入れの兆しがあるなど、安定した成長を維持するとみられますが、昇降機業界は引き続き厳しい価格競争による採算の低下が継続する見通しです。一方で、香港、台湾は、引き続き堅調な経済成長が続いており、韓国でも景気の回復がみられます。

こうした中で当社は、引き続き中国を最重要市場と位置付けて、経営資源を投入するとともに、原価低減等により損益の改善を目指します。成熟市場である香港、台湾、韓国ではモダンゼーションに注力していきます。2019年3月期の業績は減収減益を見込んでいます。

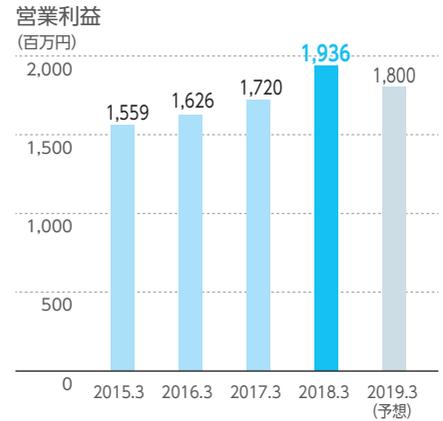
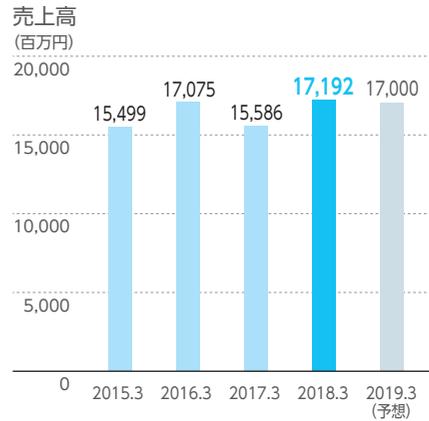


中国人壽保險新本社ビル(台湾)



ウエストカオロン・ガバメント・オフィス(香港)

南アジア



2018年3月期の取り組み

南アジアでは、インドの新設受注が低調だったものの、シンガポールやアセアン地域がアフターマーケット事業を中心に堅調に推移し、売上高・営業利益ともに前期比2桁増加する高い伸びを示しました。

主な実績は、ベトナム・ハノイで複合商業施設「アテナ・コンプレックス」のエレベータ12台を受注しました。シンガポールでは、マリーナ・ベイ地区の大型複合施設「マリーナ・ワン」にエレベータ・エスカレータ計98台、タンピネス地区の大型複合施設「アワー・タンピネス・ハブ」にエレベータ・エスカレータ・オートウォーク計73台を納入しました。

また、タイでは、バンコクのレジデンス「プラム・コンド・チェーンワッタナ」のエレベータ10台を受注しました。マレーシアでは、ジョホールバルの大型複合施設「パラダイム・モール・ジョホールバル」にエスカレータ・オートウォーク計83台を納入。プタリン・ジャヤ市の商業施設「トロピカーナ・ガーデンズ」のエスカレータ・オートウォーク計75台を受注しました。

次期の展望と取り組み

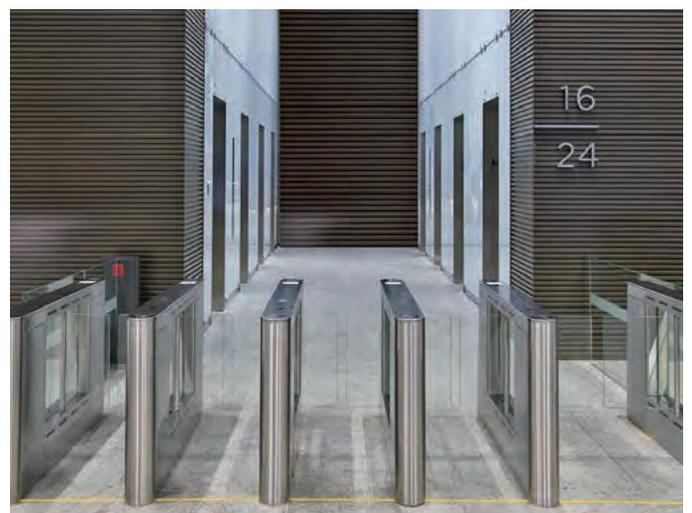
シンガポールでは、新設市場の停滞から新設事業が減少するものの、メンテナンスやモダンゼーションなどのアフターマーケットビジネスが堅調に推移する見通しです。シンガポールの利益面は、人件費・経費の増加を織り込み、減益となる見込みです。インドネシアとマレーシアはシンガポールと同じく、新設市場の停滞が影響する見通しではあるものの、モダンゼーションが堅調なことから、増益を計画しています。

市場の拡大が期待されるインドにおきましては、2017年5月に施行された不動産の開発・販売規制に関する法律と、同年7月に施行された物品・サービス税の導入で、減速した景気の回復基調が強まっていることから、需要が拡大する見通しです。

このような状況から、2019年3月期の業績はインドの拡大が見込めるものの、シンガポールやその他の国の停滞と、人件費・経費の増加から、減収減益の見通しです。

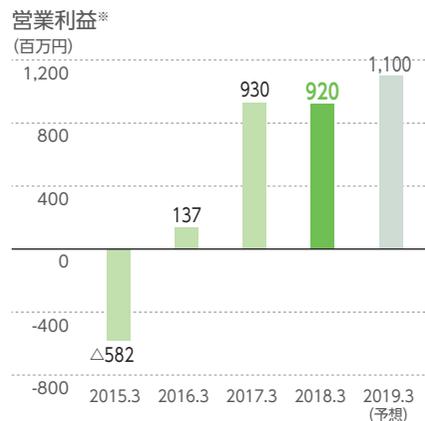


アワー・タンピネス・ハブ(シンガポール)



マリーナ・ワン(シンガポール)

営業概況



※数字は北米のみ

2018年3月期の取り組み

景気拡大が継続している北南米では、モダンゼーション工事やサービス事業が増加するなど、昇降機業界は概ね堅調に推移し、増収となりました。

主な実績は、米国ニューヨークで高層複合施設「138ウィロビー・ストリート」のエレベータ7台、高層複合施設「コート・スクエア・シティ・ビュー・タワー」のエレベータ11台を受注。同じくダラスでは複合施設「パーク・ウエスト」のエレベータ22台と、オフィスビル「バンク・オブ・アメリカ・プラザ」のダブルデッキエレベータを含む38台のエレベータ・エスカレータのモダンゼーション工事を受注しました。また、ボストンでも、複合施設「500ボイルストン」のエレベータ18台のモダンゼーション工事を受注しました。

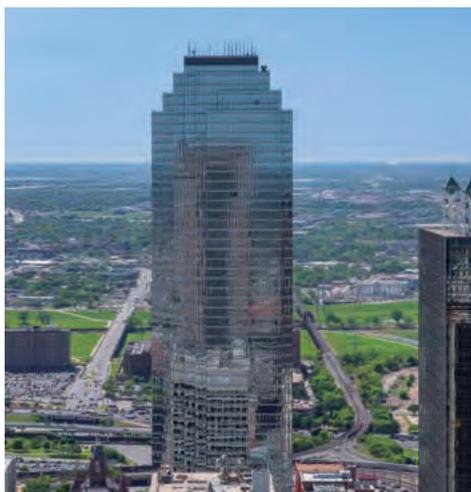
一方、南米アルゼンチンのブエノスアイレスでは、「アルヴィア・アイコン・ホテル&レジデンス」にエレベータ・エスカレータ計17台、ガリシア銀行本店ビルにエレベータ10台を納入したほか、地上30階

建のオフィスビル「トーレ・カタリーナス」のエレベータ12台を受注しました。また、ウルグアイのプンタ・デル・エステでは、高級レジデンス「トランプ・タワー」のエレベータ13台を受注しました。

次期の展望と取り組み

北米は、カナダの新規需要が停滞するとみられるものの、米国がさらなる減税政策のもとで成長が加速し、昇降機市場の新設需要も拡大する見通しです。南米では、アルゼンチンの新設市場で厳しい価格競争が続く一方、集合住宅の需要は拡大するとみられます。

こうした中で当社は、大都市での新設事業の受注活動を展開するとともに、成長性の高いモダンゼーション分野の強化を図り、マーケットの拡大に取り組んでいきます。2019年3月期の売上高は微増にとどまるものの、営業利益はサービス事業を中心に2桁の伸びとなる見込みです。

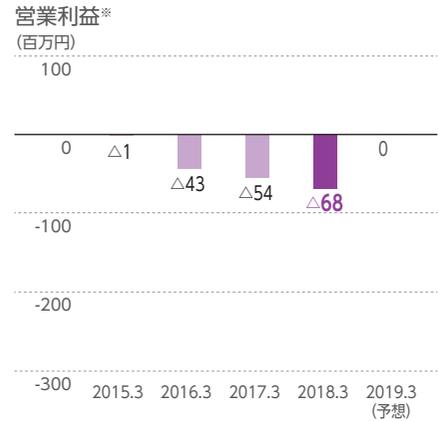
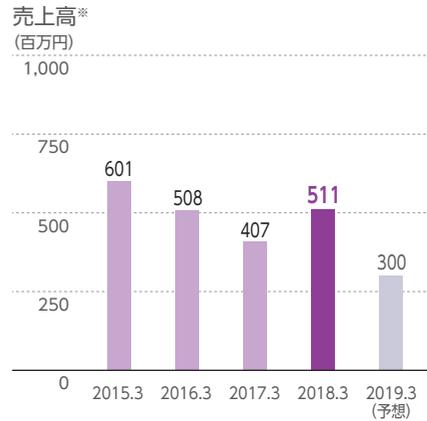


バンク・オブ・アメリカ・プラザ(米国)



トランプ・タワー(ウルグアイ)

欧州・中東



※数字は欧州のみ

2018年3月期の取り組み

欧州の新設工事は増加し、売上高が2桁の増加を示しました。一方、営業利益は為替の影響等により損失となりました。

中東では、サウジアラビアにおいて受注と完成が相次ぎました。主な実績は、メッカ市の30階建て高級ホテル「サリーム・シェイク・ホテル」の展望用を含むエレベータ12台を受注したほか、同じくメッカ市の高級ホテル「ビン・ビシャル22」にエレベータ12台を納入しました。同州ジェッダ市では、高級住宅を含む高層複合施設「ファルシ・セブン」に低層階用と高層階用のエレベータ12台を納入しました。

アラブ首長国連邦(UAE)では、ドバイの大型住宅開発プロジェクト「タウン・スクエア」のレジデンス向けにエレベータ30台を受注。同じくドバイでは、エレベータ17台を受注している高級レジデンス「マリーナ 106」の建設が進んでいます。

次期の展望と取り組み

中東では、2020年のドバイEXPOを控えているアラブ首長国連邦が良好な市場環境で推移しています。また、湾岸エリアにおいてオフィス・ホテル・商業施設を併設した複合施設の建設が計画され

ているパーレーンや、バイルートの集合住宅需要が市場をけん引しているレバノンでは、いずれも好調な市場を形成しています。さらにサウジアラビアの昇降機市場も、引き続き高いポテンシャルを維持しています。

一方、英国では、ロンドン南部で集合住宅や商業施設の建設が計画されるなど、国内投資の増加を背景に多くのエリアで建設市場の成長が見込まれています。

こうした中で当社は、グローバル標準機種エレベータ「ZEXIA」「REXIA」が欧州の最新安全規格認証を取得し、同規格適用地域への拡販を図っています。2019年3月期の業績については、ドイツ子会社の売却等により2億円の減収となる見込みです。



タウン・スクエア(ドバイ)



サリーム・シェイク・ホテル(サウジアラビア)